

病弱

- (1) 個々の児童生徒の学習状況や病気の状態、授業時数の制約等に応じて、指導内容を適切に精選し、基礎的・基本的な事項に重点を置くとともに、指導内容の連続性に配慮した工夫を行ったり、各教科等相互の関連を図ったりして、効果的な学習活動が展開できるようにすること。
- (2) 健康状態の維持や管理、改善に関する内容の指導に当たっては、自己理解を深めながら学びに向かう力を高めるために、自立活動における指導との密接な関連を保ち、学習効果を一層高めるようにすること。
- (3) 体験的な活動を伴う内容の指導に当たっては、児童生徒の病気の状態や学習環境に応じて、間接体験や疑似体験、仮想体験等を取り入れるなど、指導方法を工夫し、効果的な学習活動が展開できるようにすること。
- (4) 児童生徒の身体活動の制限や認知の特性、学習環境等に応じて、教材・教具や入力支援機器等の補助用具を工夫するとともに、コンピュータ等の情報機器などを有効に活用し、指導の効果を高めるようにすること。
- (5) 児童生徒の病気の状態等を考慮し、学習活動が負担過重となる又は必要以上に制限することがないようにすること。
- (6) 病気のため、姿勢の保持や長時間の学習活動が困難な児童生徒については、姿勢の変換や適切な休養の確保などに留意すること。

可能な範囲で通常の学級の子どもと、直接的又は間接的に活動をともにする機会を積極的に設けていきたいと考えています。体調により登校できない場合にも、友達と活動をともにすることができる授業を考えています。



病弱・身体虚弱 小学校

遠隔授業で工場見学

<p>社会</p> <p>実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体調により登校できない日がある ・コミュニケーションが苦手な自分から気持ちや考えを発信することが少ない 	<p>社会</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よりたくさんの人に利用してもらうため施設がどんな工夫をしているのかを知る
<p>実践</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>準備するもの パソコン、パソコンにカメラが内蔵されていない場合はWebカメラ、大型モニター、タブレットPC、マイク</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・児童がいる場所（病院・自宅など）と交流学級の教室と学校外施設の3カ所を同時につないで、バーチャル社会見学（間接体験）を実施する ・タブレットPCを通じて、児童が施設内部を見学し、あらかじめ考えていた質問や見学を通して知りたいと思ったことを工場担当者に尋ねる 	
<p>担任の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院などで学びの空白があったり、体調の変化などで行事と一緒に参加できなかったりする場合においても、児童が授業に参加でき、興味や関心を広げることができるようにする ・他の教科においても、ICTを活用することで、児童がタブレットPC等の機器の操作に熟達し、自分にとって必要な機能を選び使いこなすことができる力を育てる ・学習時間に制約等がある場合、基礎的・基本的な事柄を習得させる視点から指導内容を精選する ・授業中、児童が自分の体調を把握し、必要に応じて休養をとることができるようにする 	

児童が見学できない場所や立ち入りが制限されている場所の見学も可能になる

